

昭和57年度 北海道に発生した森林害虫

北海道森林昆虫談話会

(1983. 4. 20受理)

1 害虫の発生状況

北海道林務部、北海道営林局、各営林支局、北海道林木育種場、そのほか学校林などや山林所有者からの同定依頼、被害報告ならびに北海道大学、北海道林業試験場、林業試験場北海道支場の観察調査をもとにして、昭和57年度に北海道に発生した森林害虫の発生状況を第18回北海道森林昆虫談話会（昭和58年3月18～19日開催）でとりまとめた（表1～3）。

2 主な害虫の発生動向

苗畑害虫：ヒメコガネ、ナガチャコガネなど根切虫による被害も各地で見られるようになってきているが、57年の被害報告はない。

吸汁性害虫：恒常的に発生をつづけているトドマツオオブラムシはトドマツの新植造林面積が減っていることもあって、その被害面積は近年減少の傾向を示している。

虫えい害虫：江差町砂坂のクロマツ海岸林に51年から継続発生しているマツバノタマバエは全体的に生息密度が減少し林分は回復の様相を示している。しかし七飯町などで生息密度の比較的高いとみられる所も観察されており、本種は道南地方に定着したとよいであろう。当年、エゾマツカサアブラムシの被害報告はないが、苫小牧地方で壮齢造林木に多数寄生しているのが観察されている。そのほか幼齢造林木に寄生している所もある。今後エゾマツの造林が増すことも考えられるので、本種の被害実態、防除法などを明らかにする必要がある。

新梢穿入害虫：56年に道央のトドマツ造林地で、新梢の先端がおれて下垂する、ハラダチョツキリの加害に似た被害が観察されているが、57年には東利尻町のトドマツ造林地で同様の被害が観察された。

種子球果の害虫：トドマツ球果にツマクロテンヒメハマキの幼虫寄生が認められた。本種の寄生割合も比較的が多いようであるが、詳しい調査は行われていない。

食葉性害虫：カラマツキハラハバチが日高、十勝地方に発生している。これと加害時期が同じくしてハバチの1種が発生しているのが確かめられているが、発生地など詳しいことは明らかでない。カラマツハラアカハバチは胆振地方で継続発生しているが、被害面積は56年度（1,700 ha）より増えている。トドマツアミメハマキ、コメツガクチブサガが道央のトドマツ造林地に発生し新梢部を加害している。コメツガクチブサガの被害林は樹齢約30～40年、樹高15m以上の壮齢林である。当年、ツガカレハの発生報告はないが、道東地方の一部で比較的の生息密度の高い所が観察されており、周期的にみてもさらに生息数が増大すると考えられるので、今後の個体密度の変動については充分に注意する必要がある。マツカレハはこれまで北海道では、ほとんどその生息が確認されないほど個体数の少ない種であるが、札幌市内の庭園樹に異常に多く発生しているのが認められた。道央地方ではマイマイガの小面積発生が目立っている。これに混じってミスジツマキリエダシヤクの被害もあり、美瑛町、富良野市では本種による枯損の発生が認められている。ブナアオシャチホコは周期的な発生をすることで知られているが、54年に桧山、森、八雲などで11,000ha以上発生し、55年には小康状態を示したが、再び56年に函館市、戸井、尻岸内町で10,000ha以上に発生、57年には桧山管内で12,000ha以上発生した。このように周期性がくずれたような発生が続いているが、その原因はよくわからない。

穿孔性害虫：枝幸町で昭和2年植栽のエゾマツにヤツバキクイムシの加害が報告されている。そのほか、昭和56年8月、台風の通過により十勝地

方を中心に全道的に風倒被害が発生し、さらにこの年10月下旬の冠雪害によって上川北部地方にカラマツの折損、幹曲りの被害が発生した。この風雪害木にヤツバキクイムシ、カラマツヤツバキク

イムシが寄生した。場所によって生息密度の増加が認められており、今後残存林分を加害することが予想される。(林試北海道支場 小泉 力 記)

昭和57年1～12月中に報告された関係文献

- 1) 秋田米治：トドマツノハダニ，林業と薬剤，81，7～10
- 2) 福山研二：ツガカレハ，林業と薬剤，81，1～6
- 3) 東浦康友：“うんち”を調べて山を守る～害虫による食害量推定法，光珠内季報，52，27～31
- 4) 北海道森林昆虫談話会：昭和56年度北海道に発生した森林害虫，北方林業，34(6)，16～20
- 5) 池ノ谷重男：カラマツハラアカハバチの防除と適期，昭和56年度林業技術研究発表大会論文集，157～158
- 6) ————：カラマツハラアカハバチの防除(Ⅱ)，野ねずみ，169，24
- 7) ————：カラマツハラアカハバチ防除の適期と効果，北方林業 34(3)，15～18
- 8) 神田哲雄，赤田巖，大藤高志，根室造林事業班：アブラ虫防除薬剤散布器の考案，昭和56年度業務研究発表集(要約)，帯広営林支局，20
- 9) 小泉 力：北方産針葉樹を対象とした風倒に伴う虫害関連文献目録，林試北海道支場，研究資料 121，1～21
- 10) 佐藤邦彦：森林保護雑考(4)，北方林業，34(1)，24～28
- 11) ————：森林保護雑考(5)，北方林業，34(2)，12～17
- 12) 佐藤良克，柏倉 登，岡田敬弘：20号台風による被害木の実態について，昭和56年度業務研究発表集(要約)，帯広営林支局 16
- 13) 篠原 均・東浦康友：マイマイガの小面積激害が頻発する地帯の特徴，森林防疫，31(1)，8～11
- 14) 鈴木重孝・東浦康友：道有林におけるハマキガ類の発生状況(1981年)，光珠内季報，51，
- 15) 武下秀雄・村上博：カラマツ人工林間伐におけるカラマツヤツバキクイムシの発生活長と防除，森林防疫，31(10)，8～12
- 16) 館 和夫：函館地方の中国グリ栽培，光珠内季報 51，15～19
- 17) ————：道南地方の樹木病害虫(針葉樹編)，光珠内季報 54，25～28
- 18) 吉田成章：森林病虫獣害防除技術(トドマツオオアブラ，ヤツバキクイ，カラマツヤツバキクイ)，全国森林病虫獣害防除協会
- 19) ————：スギタマバエの被害について，昭和56年度林試北海道支場年報，77
- 20) ————・小泉 力：風倒後の虫害発生とその対策，北方林業 34(4) 12～15
- 21) ————：スギ・ヒノキの穿孔性害虫(分筆)創文

表一 昭和57年度森林害虫発生概要

害虫名	樹種	発生地(面積ha)	備考
スギノハダニ	スギ		54年度に道南地方で多発しているがその後報告はない。
トドマツノハダニ	トドマツ		幼齢造林地，苗畑で散見
ヒメカサアブラムシ	トドマツ アカエゾ		各地の幼齢造林地，苗畑
エゾマツカサアブラムシ	エゾマツ	札幌市	そのほか各地の幼齢造林地で発生しているほか，苫小牧地方では壮齢造林木に多数寄生しているのが観察されている。
カラマツカサアブラムシ	グイマツ	札幌市	被害木の針葉は成虫の分泌した綿状の白色ロウ質で覆われ，真白くみえる。
トドマツオオアブラムシ	トドマツ	北海道局 (2,793.00) 函館支局 (362.34) 旭川支局 (174.11)	防除面積 北海道局 (2,866.00ha) 函館支局 (195.52)

		道有林 (1,132.00) 民有林 (1,140.54) 計 (5,601.99)	道有林 (864.00) 民有林 (1,086.75) 計 (5,012.27)
エゾマツオオアブラムシ	アカエゾ エゾマツ	北海道局 (1,856.00) 旭川支局 (269.85) 帯広支局 (818.00) 道有林 (1,411.00) 民有林 (163.38) 計 (4,518.23)	防除面積 北海道局 (1,784.00ha) 帯広支局 (818.00) 道有林 (1,366.00) 民有林 (153.38) 計 (4,121.38)
カラマツオオアブラムシ	カラマツ	北見林務署 (津別町4.00)	
トドマツノタマバエ	トドマツ		報告はないが太平洋岸に面した幼齡造林地で散見される。
スギタマバエ	スギ		道南地方のスギ造林地のほぼ全域に認められる。
マツバノタマバエ	クロマツ	江差町, 七飯町	砂坂海岸林での生息密度は減少しているが, 七飯で密度の比較的高い場所が観察されているほか, 道南地方では定着したとってよい。
エゾマツノシントメ タマバエ	アカエゾ	札幌市	そのほか幼齡造林地で散見
クリタマバチ	クリ	美唄市	道南の各地で継続して発生
エゾマツハバチ	アカエゾ	上川署	採種園
カラマツキハラハバチ	カラマツ	振内署 (115.00) 平取町 (15.00) 浦幌町 (200.00) 大樹町 (3,987.00)	
カラマツハラアカハバチ		苫小牧林務署(厚真町49.00, 早来町51.00) 早来町 (257.68) 厚真町 (1,298.82) 鷓川町 (150.00) 穂別町 (660.81) 苫小牧市 (332.00)	防除面積 苫小牧林務署 (100.00ha) 早来町 (101.44) 厚真町 (595.08) 穂別町 (187.44) 苫小牧市 (140.00)
ハバチの1種	カラマツ	新冠町 (1.96) 標茶町 (0.84)	
コンボウハバチの1種	シラカンバ	札幌市	庭園樹, 街路樹に多発生
マツマダラメイガ	チョウセン ゴヨウ	江別市	各地の採種園でトドマツの球果を加害。
ドイツトウヒ マダラメイガ	アカエゾ	江別市 (1.00)	
マエアカスカシメノイガ	ヤチダモ	札幌市	
メイガの1種	カシワ	石狩町	ドングリを加害, ミズナラでも同種と思われる幼虫の加害を観察している。

トウヒツヅリハマキ	トドマツ	札幌市	新梢を加害
コスジオビハマキ	トドマツ	八雲署 (八雲町4.00) 深川市 (30.00)	八雲署は昭和43~45年に植栽した採種園
トドマツアミメハマキ	トドマツ	芦別署 (芦別市42.00) 旭川林務署 (旭川市5.00) 美深林務署 (美深町4.00) 鷹栖町 (1.76)	
トウヒオオハマキ	トドマツ	東神楽町 (7.80)	防除
トドマツメムシガ	トドマツ	名寄市 (1.40)	
カラマツイトヒキハマキ	カラマツ		報告なし
コメツガクチブサガ	トドマツ	旭川署 (旭川市29.70, 鷹栖町10.50), 留萌署 (留萌市42.03)	
カラマツツツミノガ	カラマツ		報告なし
ツガカレハ	トドマツ		報告はないが道東地方で生息密度の増加している所がある
マツカレハ	マツ類	札幌市	
マイマイガ	カラマツ	沼田町 (4.70), 和寒町 (0.20), 下川町 (6.03) 比布町 (2.48) 当麻町 (1.50) 旭川市 (8.28) 美瑛町 (19.00) 東神楽町 (13.84)	防除面積 和寒町0.20ha, 下川町5.20 旭川市6.44, 東神楽町13.84
ミスジツマキリ エダシヤク	カラマツ	美瑛町 富良野市 (1.00)	そのほか道央地方で発生が目立った
エダシヤクガの1種	カラマツ	早来町 (15.00)	
ブナアオシャチホコ	ブナ	東瀬棚署 (北桧山町10.00) 乙部署 (乙部町915.00) 桧山署 (厚沢部町3,150.00) 上ノ国町 (860.00), 江差町 (600.00) 厚沢部町 (860.00) 乙部町 (600.00) 熊石町 (690.00) 大成町 (260.00) 瀬棚町 (170.00) 北桧山町 (1,200.00) 今金町 (2,760.00) 計 (12,075.00)	ほかに2, 3種の幼虫が葉を食害しているようであるが、種類は確認されていない。
ナガチャコガネ	イチイ, 他	札幌市	そのほか道央地方に発生
スジコガネ	トドマツ, 他	札幌市	
アカタマゾウムシ	ヤチダモ	北見署 (常呂町43.80)	耕地防風林, 葉脈を残して全葉を食

		長沼町	害
チヨッキリの1種	トドマツ	東利尻町	新梢を加害
マツキボシゾウムシ	クロマツ アカマツ	函館署 (七飯町0.10) 森町 (4.50)	
シラカバナガタマムシ	シラカンバ		前年北見地方で発見された被害であるが、その後新しい被害は認められない
スギノアカネ トラカミキリ	スギ	松前林務署 (松前町4.00)	枯枝の加害跡および試験挽により推定したものである。
ヒゲナガカミキリ類	エゾマツ トドマツ		山土場材などに成虫の飛来が観察されている。

表-2 ヤツバキクイムシの発生概要

樹種	発生地 (面積ha)	備考
エゾマツ	枝幸署 (枝幸町0.02) 新得署 (8,930.00) 清水署 (2,211.00) 上土幌署 (2,187.00) 足寄署 (2,426.00) 阿寒署 (1,495.00) 弟子屈署 (1,588.00)	枝幸署, 昭和2年植, 36本 5m ² 帯広支局管内は56年風害地の未搬出林分面積である。新得(23ha), 上土幌(16ha)で薬剤の空中散布試験, 阿寒(3ha)ではフェロモンによる誘引試験を行った。
ヨーロッパトウヒ	旭川林務署 (当麻町4.00)	風倒挫折木の伐倒, はく皮 4ha防除

表-3 カラマツヤツバキクイムシの発生概要

発生地 (面積ha)	備考 (防除面積)
芦別署 (10.00) 新得署 (301.00), 足寄署 (133.00) 雄武林務署 (雄武町1.00) 池田林務署 (忠類村2.00, 幕別町11.00, 豊頃町4.00, 大樹町1.00) 早来町 (20.48), 土幌町 (58.00) 厚真町 (20.76), 新得町 (6.38) 鶴川町 (89.28), 大樹町 (19.88) 美瑛町 (13.08), 浦幌町 (34.76) 鷹栖町 (12.00), 本別町 (15.16) 比布町 (15.00), 東藻琴町 (11.40) 士別市 (19.04), 佐呂間町 (9.24) 和寒町 (20.66), 美幌町 (25.48) 下川町 (634.48), 津別町 (21.68) 風連町 (325.00), 端野町 (2.52) 別海町 (1.00), 北見市 (24.68) 池田町 (35.64), 留辺蘂町 (1.10) 幕別町 (8.60),	道局管内では振内, 厚賀, 苫小牧, 恵庭, 定山溪署で風倒木に寄生があった。新得, 足寄署は風倒木。雄武, 池田林務署管内は風倒木を伐倒, 搬出によって防除。 民有林では山土場で薬剤防除を行ったほかにはく皮焼却, 林外搬出を行った。 早来町 (20.48ha), 厚真町 (20.76ha) 鶴川町 (89.28ha), 美瑛町 (13.08ha) 鷹栖町 (9.00ha), 比布町 (15.00ha) 士別市 (17.56ha), 和寒町 (7.55ha) 下川町 (665.00ha), 風連町 (325.00ha) 別海町 (0.90ha), 池田町 (35.64ha) 幕別町 (8.60ha), 土幌町 (48.92ha) 新得町 (5.52ha), 大樹町 (19.88ha) 浦幌町 (34.76ha), 本別町 (15.16ha) 東藻琴町 (6.48ha), 佐呂間町 (9.24ha),